

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.57 2011年8月6日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

かわさき演劇まつり開催

2年に一度のかわさき演劇まつりが、7月23日(土)・24日(日)の両日、多摩市民館で開かれました。演目は、「カモメに飛ぶことを教えた猫」。最年少の出演者の浅野さん、子どもを連れて観劇したお父さんの田中さん、今回の演出を担当された青年劇場の板倉さんに感想を寄せていただきました。

「第35回かわさき演劇まつり」に参加して 気持ちはふわふわハッピー

浅野 光璃

私の「かわさき演劇まつり」との出会いは、今年の夏のスペース京浜で行われた「かわさき演劇講座」でした。私は、ミュージカルや演劇が小さい頃から好きだったので思いきって参加してみました。それがきっかけで、今年の演劇に参加しないかと声をかけて頂きました。

私の学校の部活動は学校で一番厳しいダンス部で、ただでも勉強面との両立は大変でしたし、また通学も片道80分なので体力的に無理かと思いき、初めは演劇参加を断ろうと思いましたが、様子を見に行った初日のメンバーの雰囲気がとても良かったので参加してみたくなり、とりあえずお稽古に行ってみようと思いました。台本の漢字が読めない、言葉の意味がわからない、どのように演じたらいいのかわからない、すべてにおいて初めてだらけでしたが、不思議とメンバーの方々の温かさを感じて、不安はありませんでした。



演劇まつりの舞台①(左が筆者)(写真:長坂クニヒロ・以下同)

練習を重ねながら、たくさんのことを学びました。台本の登場人物の気持ちを理解することや、言葉を理解することは、実は、普段の生活にとってもためになりました。また、舞台裏の大変さも知ることができました。

何度か稽古に通ううちに、稽古場に足を運ぶのが楽しくなり、嬉しくなり、いつのまにか稽古の日を楽しみにするようになりました。私の通うダンス部は、練習も厳しいのですが、上下関係が異常に厳しく、毎日先輩方から厳しい指導を受け精神的にもずたずた、ぎすぎすハートだったのですが、稽古のことを考えるだけで、気持ちはふわふわハッピーになれました。(下線は、今回の「かもめに飛ぶことを教えた猫」の私のセリフです。)演劇の稽古が私の心の支え、オアシスでした。

また、今回の「かわさき演劇まつり」のメンバーの中では、私が最年少で、様々な年齢の方と仲間としておつきあい頂きました。こんなことは私の人生で初めてでした。今までは年配の方とおつきあいは親戚とだけでしたが、毎回の演劇稽古で、両親や祖父母の年齢の方々とも対等にシアターゲームをしたり、歌ったり踊ったりして楽しむことができました。自分をさらけ出して、ありのままの素の自分でいられることが、とても気持ち良かったです。メンバーの方々、本当にお世話になりました。ありがとうございました!!

「かわさき演劇まつり」の公演が終わった日が人生で一番悲しい日でした。楽しみがなくなってしまったのですから。私は大好きなことがあると、どんなにつらいことでも頑張れることを知りました。私にはそういうものが必要なのです。ふわふわハッピーになれることを早く探さなくては!! (中学2年)

「約束」

—子どもと一緒に舞台を見て

田中 哲男

「ハッピー、ハッピーはいりませんか」「これで私もハッピー、あなたもハッピー」疲れきった毎日に飛びつきたくなるような台詞。現実的には決してハッピーになれない方法だが、ちょっと魅力的に感じてしまう。私もこんな現代人の一人である。

「勝ち組」「負け組」なんて言葉が流行ったことがあったが、そんな言葉に踊らされている時点で、やっぱり「負け組」。飼い猫だからっていい気になってみても、理不尽にも捨てられたら結局、捨て猫。拾ってもらっても、いつ捨てられるか分からない猫たちの姿がひょっとすると自分達にも当てはまるように感じる社会。そんな他者の一方的な評価にしがみつ়くことに意味を感じなくなっていたゾルバは生きがいを持っていなかったのではないかと。家族や仕事がなかったら私もカモメに会う前のゾルバと大して変わらないように感じる。

出会い頭の事故のように降って沸いた一方的な約束だが、その後のゾルバの変化は羨ましいものがある。現実には急に人生が変わるのは悪い時ぐらいで、急な変化でハッピーはあまりない。

しかし、私の生活は数え切れないほど沢山の約束で構成されていることにあらためて気がつくことが出来たように思う。

「約束」があるから頑張れる。「約束」という目的を果たすために仲間が集まり、より深い絆が出来る。

困難なことがあるから仲間のありがたみ分かる。やっとやっと成し遂げたことを共感し更に喜び合え



演劇まつりの舞台③

る仲間がいること。

「約束」のいい意味での副作用を子どもにも分かりやすく伝えると同時に、辛いこともあるけれど約束された役割があることに感謝

する一幕でした。

寝る前の我が子に小話をせがまれる毎日でネタが浮かばない夜もある。もっとワクワクするような話しものと思うが、自分自身がワクワクしていないのか浮かばない。いつか、「約束」の意味を自分の中でもっと消化できたときにワクワクするような夜をプレゼントしたいと思う。

2年前の「モモ」に続き2回目の家族参加が出来ました。再来年も子どもと共に期待しています。



演劇まつりの舞台④

第35回かわさき演劇まつりの演出に携わって

—京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間の皆様へ

スペース京浜には不思議なパワーが

板倉 哲

公演の成功に立ちはだかる数多の壁。震災・不況やチケット料金値上げ、また演出者の不手際も作品普及の足を引っ張ったことでしょう。関係者の皆様にご迷惑をお掛けしたことを心からお詫びします。また、物心両面でサポートしてくださった皆様に深く感謝いたします。この取組みに参加できたことを本当に幸せに思います。ありがとうございました。

自分でも驚くことに、千秋楽からまだ数日しか経たないのに公演に関する記憶がぼやけています。加齢



演劇まつりの舞台② ゾルバはカモメの母と約束を……



演劇まつりの舞台⑤

のせいか、約4ヶ月の間どんな稽古をしてきたか思い出せないのです。一番に思い出されるの

は「京浜は遠かった」事。手帳を紐解くと昨年オファーを頂いて以来半年以上、約60日通勤。毎日2時間半の稽古に対し通勤は往復で3時間半超。帰宅の電車は正直辛かったです。でもスペース京浜には不思議なパワーがあり、稽古場では何故か疲れを感じませんでした。市民参加の若者達も伸び伸びとあの空間を楽しんでいたように見えました。スペース京浜は実に理想的な演劇公民館として機能しています。稽古場を維持する為のご努力は大変なものと思察しますが、演劇まつりや演劇講座の成功はスペース京浜と劇団の存在を抜きには考えられません。是非更に維持発展させて欲しいです。

劇団の皆さんには本当にお世話になりました。特に細田さんご夫妻には感謝してもしきれません。劇団の



演劇まつりの舞台⑥

創造面では特に大道具・小道具に匠の技が受け継がれていて舌を巻きました。各分野に一騎当千の職人がおられ多くの事を教わりました。青年劇場よりも優れた創造の宝物が沢山あるのは、歴史の長さという要因だけではないような気がします。是非この宝物を（演技術・演出力も含めて）新しい世代に継承して欲しいものです。世代交代には我々も苦勞していますが、「新しい海に出る為の恐れを知らない若い水夫」の成長が今こそ必要でしょう。それができれば京浜の前途は洋々。創立70周年が待ち遠しいです。

最後に告知をお許しください。青年劇場は9月10



演劇まつりの舞台⑦

日から27日まで坂手洋二作「普天間」を上演します。題名と作者でご想像いただけましょう。現代社会の矛盾を鋭く切り取る刺激的なお芝居です。近頃青年劇場の芝居はおとなしくなったとお嘆きの皆様。右翼の上演妨害を想定しなければならない位の問題作を企画するような、往年のパワーを失ったとご不満の皆様。お待たせしました。文字通り我が劇団の存亡を賭けてお届けします。普天間は、沖縄は、そして日本は、誰の利害によって動かされているのか？ 苦しむ民衆はどうしたら救われるのか？ 大きなテーマをとある家族の会話を出発点にして描きます。9月22日（金・祝）は神奈川県立青少年センターで上演です。お申し込みは板倉（080 - 1191 - 5576）迄。割引チケットご購入のご相談に応じさせていただきます。

さて、今回のまつりは川崎に演劇好きを増やすことに貢献できましたか？ 僅かでもできたとしたら幸いです。またお会いする日迄、私も皆さんと「飛んで」いたいと思います。

(2011年7月29日)



演劇まつりの舞台⑧

川崎郷土・市民劇 第3弾 5ステージで3500人が観劇

市民劇第3弾の小川信夫作、ふじたあさや演出「枳形城 落日の舞い」が5月に行われ、好評のうちに終了しました。文化の仲間の会員で出演した山田育代さんに、感想を寄せていただきました。

忘れられない貴重な体験

山田 育代

私は川崎市民ではない。が、川崎の友人の誘いで第2回川崎郷土市民劇「池上幸豊とその妻」に参加させていただいたのが、そもそも京浜協同劇団の皆様、文化の仲間の皆様、そして今回へと繋がる出会いである。

初挑戦の郷土劇、しかも江戸時代、着物を着ての立ち居振る舞い、初めてづくしのなか、実力者揃いの皆様の演技や芝居への取り組み方は何もかもが私には新鮮で衝撃的であった。私はすっかり郷土市民劇に魅了させられ、機会があれば是非また参加したいという思いを募らせていたのである。

そんな時、第三弾のお知らせをいただいた。小川信夫先生作の鎌倉時代の郷土市民劇、ふじたあさや先生演出、いったいどんな作品になるのかと期待をふくらませ、是非にと名乗りをあげたのが今回の「枳形城・落日の舞い」である。

並行して、京浜協同劇団さんの昨年末の公演「黒と白のピエタ」にも出演させてもらえることになった。これも市民劇に参加させていただいたご縁からである。杉本孝司さんという素晴らしい演出家のもと、初めて取り組んだリアリズム演劇は本当に勉強になった。私の役は「赤ん坊を抱いた女」。水彩画でもパステル画でも油絵でもない、木版画のような女性を演じてください、と言われ、最初はまったく理解できなかったが、



市民劇の舞台（左が筆者）（撮影：小池汪）

この時の経験がなかったら今回の役は演じられなかったのではないかと思う。

話はもどるが今回の郷土市民劇で私は分不相応にも“北条から来た侍女・桂”という大役をやらせていただくことになった。育ての親である北条時政の謀略と自分の裏切り行為によって、家族同様の稲毛家の人々を滅亡に追いやり、板挟みのなか自害してしまう女性である。時代の流れに翻弄された彼女が意思を持って最後に裏切っていた内情をうちあけ、自害に至るまでのシーンは何度もこれでよいのかという自問自答を繰り返した。感情だけに流されず、きちんと



彼女の発する言葉そのままを伝えることが私の今回の役割と思い取り組んだ。紙一重の表現の違い、物言いの違い、所作の違いで桂という役が単なるずるい女性になりかねず、果たしてきちんと役割を果たせたのかの疑問は残る。

それでも大舞台で3500名を超える観客の皆様の前で一流のスタッフ・共演者・実行委員の方々に支えられながら無事幕が降りた瞬間はなんとも感動的なもので、私にとって忘れられない貴重な体験となった。

一絆、繋がる想い、繋げる想い—東北大震災以降、その言葉が私の頭をめぐる。

舞台というものは本当に沢山のひととの繋がりにより成り立っていると身に浸みて感じた今回の舞台、この時期にこの作品を今回のメンバーで上演に至ることができたのも何ものかの強い縁を感じずにはいられない。それこそ鎌倉時代からも繋がっている命や先人たちの想いの尊い縁があってこそなのではないだろうか。

今はただただこの芝居に参加できたことの縁と、その有り難さを十分かみしめ、この縁がこの先もしっかりと繋がっていくことを強く願う。

そしてこの縁を繋いでくださった皆様にこの場を借りて深く感謝したいと思う。

アメリカの国際大会に出演

腹話術師 しろたに まもる

腹話術の本場アメリカで行われた国際的な腹話術大会「VENT・HEAVEN・INTERNATIONAL・CONVENTION」に出演することができました。

この大会はアメリカをはじめ世界約10か国から五百人以上の腹話術愛好家がケンタッキー州のシンシナティ市に集まって、7月13日から4日間にわたって行われたものです。

私は日本の震災地やそこでボランティア公演をしたときの写真パネルを見せながら人形のゴローちゃんと



英語で演じました。文化の仲間の会員で、「腹話術の会★きずな」のメンバーでもある千葉の伊藤むつ子さん写真パネルをかざすときに舞台にあがって手伝ってくれました。そのときはどよめきと拍手が起こりました。

また、東北の震災地にはもう三度出かけ激励公演をやっています。川崎文化会議が取り組んでいる支援活動です。

こうして元気に活動できるのもみなさんのご支援のおかげです。ありがとうございます。



* * * *

京浜協同劇団 第40期新人 公開夏期講座

作曲家・安達元彦の40年にわたる音楽的試み（実践）と仮説の集大成が今ここに！

人はなぜ、音楽やコトバによって心がふるえるのか

■特別講師 安達元彦

■ワークショップスケジュール

①8月3日 ②8月10日 ③8月24日 ④8月31日 ⑤9月7日 最終会9月14日

※毎回水曜日 午後7時～9時30分

■参加費 各回（資料代）500円

■会場 京浜協同劇団稽古場（2F）

●今回の講座のキーワード ・シロウトは偏見のかたまり ・演劇をやっているからといって創造的なことをやっていると思うのは早トチリ ・極論の試み—創造とはなにか ・「オンチ」は合唱の創始者 ・文明は着物、文化はからだ ・ただ歌いたいためだけに歌うのではない ・声を合わせて私たちの体の中にある音をさがす ・体に訊く—まず体をうごかす。その後、シッカリ考える。・自分のなかの創造力を知る ・心熱頭冷反比例の法則 ・良い発声、悪い発声……

■申込み・問合せ 劇団 044-511-4951

担当・和田 080-1084-9612

劇団の権兵衛太鼓が新編成に

京浜協同劇団は、権兵衛太鼓を長年団内で伝えてきました。このたび、メンバーが新しくなりました。新しい3人は、劇団員の河村はじめさん、尾本裕司さん（休団中）と元劇団員の雲飛子さんです。

先日の神奈川芸術劇場の柿落としで、初舞台を踏みました。皆さんに意気込みなどを伝えていただきます。

僕にしかできない権兵衛太鼓を

尾本 裕司

4月30日、神奈川芸術劇場で、権兵衛太鼓を演じる舞台として、7回の機会を与えてもらいました。

演じる度に、変化をつけて本番に挑んでいる。今回は、家族も見に来てくれ、子どもたちに見せるのも楽しみにしていた。いざ、本番となり、それまでバナナのたたき売りやゴローちゃんを見て大喜びしていた観客たちが、静かになり、見に来ている子どもたちの顔がこわばった雰囲気伝わってきた。大人の影にかくれていた子どもたちが少しずつ顔を上げて、見はじめてくれた。やはり、本番で観客の反応を感じることができることは、ひとつの喜びとなる。達成感もある。

しかし、家に帰り、落ち着いてからビデオを見てみると、自分の思っているようにできていない所が見えてきて、落ち込んだりもする。

そして、元祖メンバーの権兵衛太鼓のビデオを見ては、見入ってしまうのだ。真似てみようとしてもなかなかうまくいかないのだが、またしっかり稽古をして頑張りたいと思う。今はまだ真似しようという段階かもしれないが、いずれは、僕らしい、僕しかできない権兵衛を、皆さんに見せることができればと思う。そして、お客さんが、権兵衛太鼓の世界に入っていけるような楽しい舞台を創っていきたい。

今回は、舞台に立つ機会を作ってくれてありがとうございました。次は、もうひとつ成長した姿を見せられるよう頑張ります。

権兵衛太鼓

今度は笛にもチャレンジ

雲飛子

20数年前に初舞台を踏み、権兵衛、天狗、般若の3役を経験し、諸事情により劇団を去ってしまいましたが、この権兵衛太鼓だけは心残りでした。これだけは続けていきたいと普通の人に戻ったあともずっと心に秘めていました。でもまさか劇団を逃げるように去った私に声がかかるはずもないと思って半ば諦めかけていましたが、劇団員でなくてもいいから権兵衛太鼓を演らないかとの声がかかりました。これを逃す手は無いとすぐに飛びつき新生権兵衛太鼓の立ち上げが始まりました。初演は劇団の公演だったと記憶しています。その後現メンバーで何度か舞台に立ち、最近ではKAATの柿落としの催しの一部に参加させてもらいました。

権兵衛太鼓の魅力は、やはりお芝居のスジが面白いと思います。権兵衛がひよんなことから天狗と般若に会い太鼓を教わり上手くなっていくということですがその解釈は色々あり、これだけでも喧々諤々できる内容だと思えます。また演技だけでなく太鼓の技術も必要でさらにお面をかぶるので能の要素も入った総合的な演目なのでとても演りがいがあります。さらに権兵衛、天狗、般若と笛、囃子のアンサンブルで成り立っていくので、本番を重ねれば重ねるほど異なった権兵衛太鼓が生まれていきます。かっこよく言えば進化しています。

建前上では続けていきたいとは思いますが、体がついていけなくなっているのが最近判り始めました。体力の続く限り、また要請がある限りは続けようと思っていますが、できれば早く般若の後継者を見つけて今度は笛にチャレンジしようと思っています。

誰か般若演りたい人声をかけてください。

新しいステージへ？

河村 はじめ

権兵衛太鼓の天狗役をやらせて頂いてから随分と月日だけは経った……と思いきや、記録をみると始まりは2006年、「夏企画」（「雨やどり」公演とその最終日のお客サービス公演）での初披露に向けた稽古だった。まだ5年か……と思いきや、この間に私は二度職場を変えていた（痛）。5年前の稽古では尾本君と私が、先輩の雲飛子さんに鼓舞されつつ、三役の先輩による付き切りの指導を受けた。お陰で緊張の中でデビューを果たし、温かい拍手を受けた。その後は年平均1回程度の出演の機会に集まって少し稽古をするという、「亀の歩み」が続いたが、今回は少しばか

権兵衛太鼓（残念ながら新チームの写真はありませんでしたので、写真は旧チームです）



り質的な変化（前進）があった。事後的な解説をすれば、権兵衛の動きについての尾本君の持ち込みがあり、稽古を見て頂いた内田氏とのやりとりを経て、これまで「形」を追いかけるのに向いていた力が、その「形」たらしめているもの（文脈、心理）と自分の感覚の間の整理に向けられた、というのがその中身だ。これに触発される形で、全体が少し動き、より生き生きとした権兵衛に近づいたと思っている。「権兵衛太鼓」を演劇として捉え、ドラマ世界を舞台上にうみ出そうとする能動的な関わりは、言葉にすると平板になるが、これはちょっとしたわくわく感を与えてくれた。

午後の山間、天狗と般若がたまたま通りかかった権兵衛を巻き込んで一緒に太鼓を叩き興じるに至るといふドラマには、通常共存しえない人間と異形の者が音

楽を媒介として共存する、「違いを乗り越えて手を取り合う」感動の図式がある。人やその関係性は変わり得るという可能性はドラマの大きな要素だ。この変化を全身を使って表現する権兵衛、華麗に動いて権兵衛を翻弄する般若、威厳の源のように立つがどこかお茶目でもある天狗、しかし中で最も激しく消耗するのは権兵衛、次に般若、最後に天狗だ。演技の難易度は何とも言えないが運動量の差は確かにある。だが今回、曲がりなりに5年間付き合ってきた天狗殿の心、未だ埋めきれないでいた中身を、自分の身体を通してどう表現する課題が存在するという（当たり前な事だが）発見があった。願わくは、今後とも「程よい頻度」で、3人で権兵衛太鼓をやる機会に恵まれればと思う。

よこはま壺座と初の合同公演

「皇國ノ訓導タチ」

教育をテーマに12月、青少年ホールで

京浜協同劇団 城谷護（制作担当）

劇団の次回公演は、なかの・ひろし作「皇國ノ訓導タチ」に決まりました。劇団よこはま壺座（旧、劇団蒼生樹）と京浜の初の合同で、神奈川県演劇連盟合同公演としての企画となります。

この作品は、教師の劇団創芸（東京）と劇作家なかの・ひろしが生み出した力作で、二十数年前同劇団によって上演され、反響をよんだものです。戦争が終結する

直前の昭和20年春、教師や子どもたちが戦争に巻き込まれていく状況を背景に、教師や子どもや親たちの、必死に生きていく姿を感動的に描いています。君が代や偏向教科書が問題になっていますが、今日の教育問題を考えるにふさわしい作品です。

京浜協同劇団とよこはま壺座は民主的な演劇づくりをめざす全日本リアリズム演劇会議に加盟していますが、この両劇団がそれぞれの持ち味を出し合って、単独ではできない力量溢れる芝居を創り出したいと思います。

演出には壺座の濱田重行が、また、制作には京浜の城谷護があたります。

ご期待ください。

京浜協同劇団＋よこはま壺座 合同公演

皇國ノ訓導タチ

作 なかのひろし 演出 濱田重行 制作 城谷護

日程 2011年12月16日（金）18：30 / 17日（土）14：00 / 18：30
12月18日（日）14：00

会場 神奈川県立青少年センター

入場料 大人 2500円（当日3000円）（仮）

問合せ・申込み 京浜協同劇団（044-511-4951） 劇団よこはま壺座（090-8175-3031）

訓導：旧制小学校の正規の教員の称。学校教育法により現在は教諭。（広辞苑より）



◎文化の仲間通信◎

◆歌を楽しむ日曜日 私が出会ったおんな 第9回
大倉ミカさんを迎えて

日程 8月14日(日) 午後2時開演
会場 練馬区勤労福祉会館音楽室
プログラム 貝殻節・ピアノバー・金色の麦畑・窓をあけて・七つの刀・人生世ありがとう ほか
参加費 3000円
申込み・問合せ たつの素子 03-3997-3676
motoko1228@jcom.home.ne.jp

◆第13回 響け! みやまえ太鼓ミーティング
届け、太鼓にこめた復興への願い

日程 8月20日(土)
第1部 市民館ホール 午後2時～
第2部 市民広場 午後5時55分～
ゲスト 民族歌舞団 荒馬座
参加団体 第1部(横浜都筑太鼓/平保育園/南平こども樽太鼓/鼓音と楽鼓隊/どんどこ ほか)
第2部(大塚太鼓/里空/野川親子太鼓大地/川崎太鼓仲間響)
主催 実行委員会/宮前区
問合せ 宮前区地域振興課 044-856-3125
当日は、太鼓の体験コーナーや浴衣の着付けコーナーがあります。

◆かがり火の中の和太鼓コンサート in 築田寺IV

日程 8月21日(日) 午後5時開演
会場 築田寺(町田市忠生2-5-33)
出演 友野龍士(和太鼓)・無限(和太鼓)・kiji-雅鳥(津軽三味線)・川崎太鼓仲間響・和太鼓集団きらり
入場料 一般2000円 小中、障がい者1000円
申込み・問合せ
OHANAプロジェクト 050-3529-5506(事務局)

◆山寺圭子「うた・唄・歌」 vol.26

ふるさとよ 愛よ…
日程 9月7日(水) 午後7時開演
会場 めぐろパーシモンホール(小ホール)
プログラム Bellini(6つのアリエッタより) マリンコニーア・もし私ができないなら・私の偶像よ・喜ばせてあげて/Brahmus 歌の調べのように・私の眠りはいよいよ浅く・甲斐なきセレナーデ ほか
入場料 3500円(全席自由) 高校生以下2000円
申込み・問合せ 山寺圭子 044-511-8995

◆秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場 第104回公演
普天間

日程 9月10日(土)～19日(月・祝) ほか
会場 紀伊國屋ホール ほか
作 坂手洋二/演出 藤井ごう/出演 上甲まち子・青木力弥・葛西和雄・藤木久美子 ほか
入場料 一般5000円 30歳以下3000円
沖縄戦。アメリカの占領下の米軍による事件、事故。返還後の日本政府のアメとムチ。そのたびに沖縄の人々は集まり、抗議してきたが、基地はそこにあり続けた。今日も早朝からヘリと戦闘機の轟音に包まれて戦争と基地への記憶が交差する。沖縄三部作に続いて坂手洋二が、青年劇場とともに普天間を舞台に新たに

沖縄の心に挑む!

申込み・問合せ
青年劇場チケットサービス 03-3352-7200

◆川崎市民劇場 第304回例会 劇団銅鑼公演
はい、奥田製作所。

日程 10月3日(月)～8日(土)
会場 エポック中原・幸市民館
作 小関直人/演出 山田昭一/出演 鈴木瑞穂・菊池佐玖子・千田隼生 ほか
大田区の町工場を舞台に、生きるために必要なものとはを考えさせる。

申込み・問合せ
溝の口事務所 044-855-5916
川崎事務所 044-244-7481

◆第5回〈弾談の会びあ〜の〉公演
舞・ひと・音

日程 11月20日(日) 午後2時開演
会場 武蔵野公会堂(吉祥寺駅徒歩2分)
ゲスト 在家育江 ピアノ 鈴木たか子
プログラム ピアノソロ(つかの間の幻影・ピーターと狼)/在家育江さんと一緒に(人生よ ありがとう/MIN-YO) ほか
会費 会員本人2500円 一般3000円
申込み・問合せ 市原賤香 0422-55-4764
鬼武晴子 13-6431-8721

◆合唱団いちばん星 第19回コンサート
人々の心をつないで

日程 12月23日(金・休日) 午後2時開演
会場 エポック中原(川崎市総合福祉センター)
指揮 山寺圭子 ピアノ 梅澤文子
プログラム 第I部(東北へのエール 組曲「蔵王」より) 第II部(美空ひばりステージ) 第III部(みんなで歌おうコーナー) 第IV部(平和のステージ)
入場料 999円(全席自由)
申込み・問合せ 岡稔彦 045-541-5033

■文化の仲間ギャラリー■ 小野寺 晃③

